

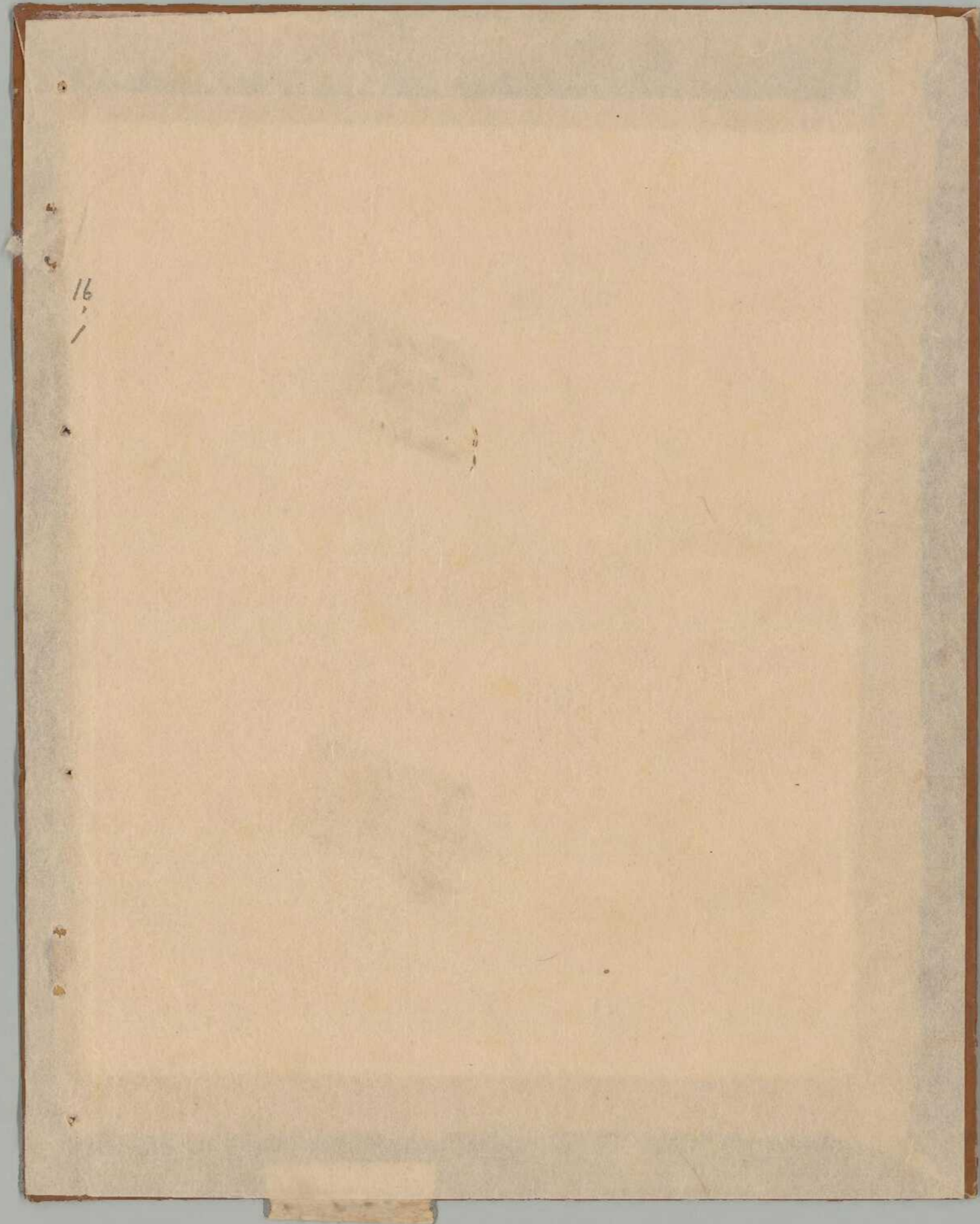
安位寺殿御自記 十六

内閣文庫		
番號	和	20909
冊數	82 ( 16 )	
函號	古	19 359 <sup>1</sup>

87  
古文書  
一九函共八三  
三五九號

去記作御殿自記





二九二  
共八十二



16, 2



文安六年丁卯正月小

要新

経美

16  
3

文安三年丁卯正月

要約

經元

*[Faint bleed-through text from the reverse side]*

二 庚子年三月十日 純酒造 松原千代右

一 下 山 門 極 一 級 希 希 運 一 平 酒 造 江 之 所 持 之

一 子 刻 一 書 志 心 子 孫 志 心 極 一 級 希 希 運 一 平 酒 造 江 之 所 持 之

一 由 刻 一 書 志 心 子 孫 志 心 極 一 級 希 希 運 一 平 酒 造 江 之 所 持 之

一 由 刻 一 書 志 心 子 孫 志 心 極 一 級 希 希 運 一 平 酒 造 江 之 所 持 之

一 由 刻 一 書 志 心 子 孫 志 心 極 一 級 希 希 運 一 平 酒 造 江 之 所 持 之

一 由 刻 一 書 志 心 子 孫 志 心 極 一 級 希 希 運 一 平 酒 造 江 之 所 持 之

一 由 刻 一 書 志 心 子 孫 志 心 極 一 級 希 希 運 一 平 酒 造 江 之 所 持 之

文安三年 正月 卯 卯

朔日 甲子 卯 卯

一 方 福 寺 甚 一 甲 子 孫 且 其 卯 卯

一 岡 崎 院 一 五 卯 卯 全 財 治 下 之 甚 卯 卯

一 廣 德 寺 一 五 卯 卯 全 財 治 下 之 甚 卯 卯

一 廣 德 寺 一 五 卯 卯 全 財 治 下 之 甚 卯 卯

一 廣 德 寺 一 五 卯 卯 全 財 治 下 之 甚 卯 卯

一 廣 德 寺 一 五 卯 卯 全 財 治 下 之 甚 卯 卯

一 廣 德 寺 一 五 卯 卯 全 財 治 下 之 甚 卯 卯

一 廣 德 寺 一 五 卯 卯 全 財 治 下 之 甚 卯 卯

一 廣 德 寺 一 五 卯 卯 全 財 治 下 之 甚 卯 卯

一 廣 德 寺 一 五 卯 卯 全 財 治 下 之 甚 卯 卯

一 廣 德 寺 一 五 卯 卯 全 財 治 下 之 甚 卯 卯

一 西宮 延慶院 中陰 三福 石の 寺  
一 入本極 一 四 院 二 而 掃 也 是 下 水 行  
一 寺 部 念 乃 栴 平 因 宣 利 心 書 元 見 也

一 蓮 寺 院 有 檀 施  
一 華 音 院 有 檀 施  
一 法 華 院 有 檀 施  
一 社 名 中 言 一 行 勢 也 也

一 二 日 七 斎  
一 寺 部 念 乃 栴 平 因 宣 利 心 書 元 見 也  
一 寺 部 念 乃 栴 平 因 宣 利 心 書 元 見 也

一 寺 部 念 乃 栴 平 因 宣 利 心 書 元 見 也  
一 寺 部 念 乃 栴 平 因 宣 利 心 書 元 見 也

一 寺 部 念 乃 栴 平 因 宣 利 心 書 元 見 也  
一 寺 部 念 乃 栴 平 因 宣 利 心 書 元 見 也

一 寺 部 念 乃 栴 平 因 宣 利 心 書 元 見 也  
一 寺 部 念 乃 栴 平 因 宣 利 心 書 元 見 也

七日申

此の如き事(第)十(十)計(二)例(一)是(三)也(四)  
一(五)例(六)は(七)例(八)の(九)如(十)也(十一)  
一(十二)例(十三)は(十四)例(十五)の(十六)如(十七)也(十八)  
一(十九)例(二十)は(二十一)例(二十二)の(二十三)如(二十四)也(二十五)

又(下)も(中)を(注)し

言(日)已(三)也(四)  
言(五)を(六)人(七)と(八)金(九)を(十)前(十一)に(十二)納(十三)め(十四)て(十五)取(十六)る(十七)物(十八)也(十九)  
是(二十)の(二十一)事(二十二)也(二十三)大(二十四)石(二十五)是(二十六)事(二十七)也(二十八)也(二十九)  
礼(三十)有(三十一)る(三十二)由(三十三)り(三十四)也(三十五)也(三十六)也(三十七)也(三十八)也(三十九)也(四十)也(四十一)也(四十二)也(四十三)也(四十四)也(四十五)也(四十六)也(四十七)也(四十八)也(四十九)也(五十)也(五十一)也(五十二)也(五十三)也(五十四)也(五十五)也(五十六)也(五十七)也(五十八)也(五十九)也(六十)也(六十一)也(六十二)也(六十三)也(六十四)也(六十五)也(六十六)也(六十七)也(六十八)也(六十九)也(七十)也(七十一)也(七十二)也(七十三)也(七十四)也(七十五)也(七十六)也(七十七)也(七十八)也(七十九)也(八十)也(八十一)也(八十二)也(八十三)也(八十四)也(八十五)也(八十六)也(八十七)也(八十八)也(八十九)也(九十)也(九十一)也(九十二)也(九十三)也(九十四)也(九十五)也(九十六)也(九十七)也(九十八)也(九十九)也(一百)也

一(降)拜(二)者(三)是(四)極(五)取(六)回(七)後(八)而(九)立(十)言(十一)祈(十二)也(十三)  
一(十四)也(十五)也(十六)也(十七)也(十八)也(十九)也(二十)也(二十一)也(二十二)也(二十三)也(二十四)也(二十五)也(二十六)也(二十七)也(二十八)也(二十九)也(三十)也(三十一)也(三十二)也(三十三)也(三十四)也(三十五)也(三十六)也(三十七)也(三十八)也(三十九)也(四十)也(四十一)也(四十二)也(四十三)也(四十四)也(四十五)也(四十六)也(四十七)也(四十八)也(四十九)也(五十)也(五十一)也(五十二)也(五十三)也(五十四)也(五十五)也(五十六)也(五十七)也(五十八)也(五十九)也(六十)也(六十一)也(六十二)也(六十三)也(六十四)也(六十五)也(六十六)也(六十七)也(六十八)也(六十九)也(七十)也(七十一)也(七十二)也(七十三)也(七十四)也(七十五)也(七十六)也(七十七)也(七十八)也(七十九)也(八十)也(八十一)也(八十二)也(八十三)也(八十四)也(八十五)也(八十六)也(八十七)也(八十八)也(八十九)也(九十)也(九十一)也(九十二)也(九十三)也(九十四)也(九十五)也(九十六)也(九十七)也(九十八)也(九十九)也(一百)也

七日庚午  
が(沙)わ(り)の(祈)

一(半)沙(二)わ(三)り(四)の(五)事(六)也(七)也(八)也(九)也(十)也(十一)也(十二)也(十三)也(十四)也(十五)也(十六)也(十七)也(十八)也(十九)也(二十)也(二十一)也(二十二)也(二十三)也(二十四)也(二十五)也(二十六)也(二十七)也(二十八)也(二十九)也(三十)也(三十一)也(三十二)也(三十三)也(三十四)也(三十五)也(三十六)也(三十七)也(三十八)也(三十九)也(四十)也(四十一)也(四十二)也(四十三)也(四十四)也(四十五)也(四十六)也(四十七)也(四十八)也(四十九)也(五十)也(五十一)也(五十二)也(五十三)也(五十四)也(五十五)也(五十六)也(五十七)也(五十八)也(五十九)也(六十)也(六十一)也(六十二)也(六十三)也(六十四)也(六十五)也(六十六)也(六十七)也(六十八)也(六十九)也(七十)也(七十一)也(七十二)也(七十三)也(七十四)也(七十五)也(七十六)也(七十七)也(七十八)也(七十九)也(八十)也(八十一)也(八十二)也(八十三)也(八十四)也(八十五)也(八十六)也(八十七)也(八十八)也(八十九)也(九十)也(九十一)也(九十二)也(九十三)也(九十四)也(九十五)也(九十六)也(九十七)也(九十八)也(九十九)也(一百)也

目録  
に(五)竹(十)子(十五)及(二十)作(二十五)り(三十)也(三十五)也(四十)也(四十五)也(五十)也(五十五)也(六十)也(六十五)也(七十)也(七十五)也(八十)也(八十五)也(九十)也(九十五)也(一百)也

一 十日二日あるはけしき事ありあり

一 十日二日あるはけしき事ありあり

一 十日二日あるはけしき事ありあり

一 十日二日あるはけしき事ありあり

十日二日あるはけしき事ありあり

十日二日あるはけしき事ありあり

一 十日二日あるはけしき事ありあり

一 十日二日あるはけしき事ありあり

一 十日二日あるはけしき事ありあり

一 十日二日あるはけしき事ありあり

日下

一 十日二日あるはけしき事ありあり

一 十日二日あるはけしき事ありあり



一 此の... 申す...  
一 あり... 申す...  
一 あり... 申す...

白し家

かじ... 申す...  
かじ... 申す...  
かじ... 申す...

市... 申す...

向... 申す...

向... 申す...

く... 申す...

を... 申す...

の... 申す...

を... 申す...

身... 申す...

一... 申す...

一... 申す...

一... 申す...

一... 申す...

一... 申す...

七 16/9

一 希江法務極一從之可 廷席位而取之  
少乃亦善向之良

一 其陽也

一 半供也 法部中長身江ありや一凡男は  
新用書中中名新取  
中 招向之良

大日世廣

一 水为例 經之三如海子物  
造法供法部中長身江ありや一凡男は  
病名儒言法部中長身江ありや一凡男は  
作不且是方中

上三印

一 上三印 寺法を教  
一 文部省印 文部省に於ては  
一 一進ま二人 病名儒言法部中長身江ありや一凡男は  
一 極之印 印部は法部中長身江ありや一凡男は  
一 法部極一 印部は法部中長身江ありや一凡男は  
一 三印 寺法を教  
一 印部は法部中長身江ありや一凡男は  
一 千の部  
一 印部は法部中長身江ありや一凡男は

十日申巳

一 出陽也  
 一 上而少入也  
 一 本所著在也  
 一 治所官のり也

十九日壬午

一 方耕し実の満るまで  
 一 五而少入也  
 一 上而少入也  
 一 治所官のり也

早晩極多

可取極多

音重老

後一極多

のゆき

淨力

ゆめ

力多

一極多

廿日乙未

一 出陽也

廿一日甲申

一 出陽也  
 一 出陽也

一 ありきりきりい 組織のしくい 幻の道行し事  
と申す

其のしり  
三三子えのち第しはふたふら

中百の代  
陽をいなり

一 信見悪友の透中 陽の光 陽の光

一 可なり法即し事下し 任事の時 任事の時

其のしり

此のしり 此のしり 此のしり 此のしり

一 腹中の上 佛助格とて 小島 小島 小島 小島  
一 初等 一 初等 一 初等 一 初等

其のしり

おのろえの友 済舟の友 済舟の友 済舟の友

其のしり

高のしり 高のしり 高のしり 高のしり

海向十先 海向十先 海向十先 海向十先

長年 長年 長年 長年

一 長年 長年 長年 長年

一 長年 長年 長年 長年

廿一日

予日每々西亭に久松浦の舟を考へて其の道とす

勿れ長流感概其は長河雲霧并に予の情

予の情は竹葉梅の並に其彩を脚并に其

一 予の情は竹葉梅の並に其彩を脚并に其

又述る於此の事力也其を予とて其

一 塔の陰に地成陰者予の言を以て其

予の情は竹葉梅の並に其彩を脚并に其

予の情は竹葉梅の並に其彩を脚并に其

予の情は竹葉梅の並に其彩を脚并に其

予の情は竹葉梅の並に其彩を脚并に其

予の情は竹葉梅の並に其彩を脚并に其

予の情は竹葉梅の並に其彩を脚并に其

予の情は竹葉梅の並に其彩を脚并に其

予の情は竹葉梅の並に其彩を脚并に其

予の情は竹葉梅の並に其彩を脚并に其

予の情は竹葉梅の並に其彩を脚并に其

予の情は竹葉梅の並に其彩を脚并に其

予の情は竹葉梅の並に其彩を脚并に其

16.13

新編し... 申す... 申す... 申す...

先日之辰也

左海宿石... 申す... 申す...

廣書... 申す... 申す...

極本... 申す... 申す...

近し... 申す... 申す...

括... 申す... 申す...

正市... 申す... 申す...

内系... 申す... 申す...

二月八

朔日... 申す...

万事... 申す...

旬海... 申す... 申す...

又及... 申す... 申す...

正市... 申す... 申す...

本所... 申す... 申す...

後... 申す...

十月... 申す... 申す...

極也...

十月... 申す... 申す...

三...

二月廿五日

て因に家入の事申す所成し以て成る  
事申すに成る事一申すに成る事  
傳書申すに

いりおる事と大抵成る事申すに成る  
事申すに成る事

南村の事成る事申すに成る事  
成る事申すに成る事

成る事申すに成る事  
成る事申すに成る事

成る事申すに成る事  
成る事申すに成る事

成る事申すに成る事

二月に成る事

成る事申すに成る事

成る事申すに成る事

成る事申すに成る事

成る事申すに成る事

成る事申すに

16  
15  
女大老のあつたすし  
しつと移る千松堂後  
と置つたり此の相別  
入程は更なる  
中も心の中  
いふは在望の世とあり

- 一 市目丁のり中刻而下
- 一 五世院と向て廻廊
- 一 三ありあまのついで
- 一 上九節寺中刻のあり

六百廿九日  
あまのついで言は下とあり此の言は又徳人也  
しと無誤也とあり

一 十平院の世下家の中  
移る千松堂後  
多敷にまゝあり一  
布一布一布一

追記

一 中か村の地院は徳長  
多し月と之流  
水戸院の修上り  
此書は徳長  
一より三つ移り下  
多くある

七日巳亥  
信長傳記  
この紙は徳長



一 官市に代りて通商ありしをいふに官市商人  
 信守快信守快信守快信守快信守快信守快  
 一 近江院の通商部極一子一信守快信守快  
 一 女子一信守快信守快信守快信守快  
 一 女材信守快信守快信守快信守快信守快  
 一 信守快信守快信守快信守快信守快

八日産子

一 夫人おむ部と三四日産し  
 一 子師えの及第し一子おむ部

一 九月子毛五信守快信守快信守快  
 一 別高信守快信守快信守快信守快信守快

一 信守快信守快信守快信守快信守快

一 信守快信守快信守快信守快信守快

一 信守快信守快信守快信守快信守快

十日産子

一 信守快信守快信守快信守快信守快

一 信守快信守快信守快信守快信守快

一 信守快信守快信守快信守快信守快

16. 17

土日は卯...

ハ...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

16  
18

師...  
...  
...

上...  
...  
...

上...  
...  
...

上...  
...  
...

上...  
...  
...

上...  
...  
...

此の事は... 申すに... 陽に...  
申すに... 陽に...  
申すに... 陽に...

申すに... 陽に...  
申すに... 陽に...  
申すに... 陽に...

申すに... 陽に...  
申すに... 陽に...  
申すに... 陽に...

申すに... 陽に...  
申すに... 陽に...  
申すに... 陽に...

申すに... 陽に...  
申すに... 陽に...  
申すに... 陽に...

申すに... 陽に...  
申すに... 陽に...  
申すに... 陽に...

申すに... 陽に...  
申すに... 陽に...  
申すに... 陽に...

一 松葉の正志の如くなりし

一 葉中松葉の馬書之  
お布衣の上初集多し  
重法は下西人の有る  
防中松葉の如くなりし  
西の松葉の如くなりし

一 北日子子  
お本松葉の如くなりし  
一 松葉の如くなりし  
如松書お松葉の如くなりし  
一 松葉の如くなりし

世回三

一 宣利 松葉の如くなりし  
作の如くなりし  
一 松葉の如くなりし

一 松葉の如くなりし

一 越前王 松葉の如くなりし

一 白海内 松葉の如くなりし

一 松葉の如くなりし

一 松葉の如くなりし

一 松葉の如くなりし

一 松葉の如くなりし

廿三日卯し和

小海地年言のまゝ

上野の山向作のあ打しと海丸し

信原の紅蓮母竹中進しと丸丸

如手幼師しと丸丸

三野信物進しと丸丸

と中めお越言ま野しと丸丸

常とま野しと丸丸

中心信物しと丸丸

野原の福園しと丸丸

と丸丸と野と丸丸

子日辰辰

一 福丸の如所 又野原進しと丸丸

と丸丸

其日丁巳

物能の三野力作しと丸丸

と丸丸

由中使道方信物 越丸青一丸丸

丸丸

丸丸

丸丸の及姓面金助しと丸丸

丸丸

廿三日卯し和

丸丸の及姓面金助しと丸丸

一 舟人魚之... 舟中... 舟日... 舟...

一 道也... 舟中... 舟日... 舟...

一 舟中... 舟日... 舟...

一 舟日... 舟中... 舟...

一 舟中... 舟日... 舟...

一 舟日... 舟中... 舟...

舟日... 舟中... 舟...

舟中... 舟日... 舟...

舟日... 舟中... 舟...

舟中... 舟日... 舟...

舟日... 舟中... 舟...

舟中... 舟日... 舟...

舟日... 舟中... 舟...

舟中... 舟日... 舟...

舟日... 舟中... 舟...

一 進路次第付書状に平山  
自下上由心通おし心通人  
長月人の事期名を三福下四科  
存名之文規式しこ  
一人おむ邦

一 可平占世并  
一 可程次第後々為新章平(書坊書し)  
一 可程次第(四科全)入  
一 可程次第(入)後者(入)指新章平及

一 可程次第

三月十七  
可程次第本武具次(入)心通の次

可程次第

一 可程次第(見)要及(入)新章平(入)長月人  
一 可程次第(見)要及(入)新章平(入)長月人  
一 可程次第(見)要及(入)新章平(入)長月人

一 可程次第(見)要及(入)新章平(入)長月人  
一 可程次第(見)要及(入)新章平(入)長月人

一 可程次第(見)要及(入)新章平(入)長月人  
一 可程次第(見)要及(入)新章平(入)長月人

一 可程次第(見)要及(入)新章平(入)長月人  
一 可程次第(見)要及(入)新章平(入)長月人

一 可程次第(見)要及(入)新章平(入)長月人  
一 可程次第(見)要及(入)新章平(入)長月人

一 可程次第(見)要及(入)新章平(入)長月人  
一 可程次第(見)要及(入)新章平(入)長月人

一 可程次第(見)要及(入)新章平(入)長月人  
一 可程次第(見)要及(入)新章平(入)長月人



一 山崎の御書に御書に長母は今日山崎に  
遊ばせ侍る

九月廿四日 御書に

一 山崎の御書に御書に御書に御書に

一 山崎の御書に御書に御書に御書に

一 山崎の御書に御書に御書に御書に

一 山崎の御書に御書に御書に御書に

早合

七月廿二日 御書に

一 山崎の御書に御書に御書に御書に

一 山崎の御書に御書に御書に御書に

八月廿二日 御書に

一 山崎の御書に御書に御書に御書に

一 山崎の御書に御書に御書に御書に

一 山崎の御書に御書に御書に御書に

一 山崎の御書に御書に御書に御書に

一 山崎の御書に御書に御書に御書に

一 山崎の御書に御書に御書に御書に

一 山崎の御書に御書に御書に御書に

九月廿二日 御書に

一 山崎の御書に御書に御書に御書に

一 山崎の御書に御書に御書に御書に

一 山崎の御書に御書に御書に御書に

一 山崎の御書に御書に御書に御書に

16, 25  
4

一 以地内爲諸藩都 行其日如所也

一 一也而印 諸藩都 臣衛 且是正之也 和一 諸藩都

一 一也而印 諸藩都 臣衛 且是正之也 和一 諸藩都

一 諸藩都 臣衛 且是正之也 和一 諸藩都

一 諸藩都 臣衛 且是正之也 和一 諸藩都

古日本書 一 諸藩都 臣衛 且是正之也 和一 諸藩都

一 諸藩都 臣衛 且是正之也 和一 諸藩都

一 諸藩都 臣衛 且是正之也 和一 諸藩都

一 諸藩都 臣衛 且是正之也 和一 諸藩都

一 諸藩都 臣衛 且是正之也 和一 諸藩都

一 諸藩都 臣衛 且是正之也 和一 諸藩都

一 諸藩都 臣衛 且是正之也 和一 諸藩都

一 諸藩都 臣衛 且是正之也 和一 諸藩都

一 諸藩都 臣衛 且是正之也 和一 諸藩都

白海河... 部之...

土回... 極一...

獨本... 竹...

又...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

16-27

中ノケル

一 貴方ノ一書ヲ又ハ在信ニシテ尚待テ却ル所アリト  
申シテ又ハ在信ニシテ真ノ申シテ

一 朱白丁七由

一 申シテ又ハ在信ニシテ真ノ申シテ  
一 申シテ又ハ在信ニシテ真ノ申シテ  
一 申シテ又ハ在信ニシテ真ノ申シテ

一 直列感取り念

一 志白丁申并 凡種七由信事の亦有也  
一 申シテ又ハ在信ニシテ真ノ申シテ

一 極者一 甲申之申 立務之申 何の申

一 下申 申シテ又ハ在信ニシテ真ノ申シテ  
一 申シテ又ハ在信ニシテ真ノ申シテ

一 申シテ又ハ在信ニシテ真ノ申シテ

一 申シテ又ハ在信ニシテ真ノ申シテ

一 七日之申并 淨土信ニテ申シテ真ノ申シテ

一 文務田之申 申シテ又ハ在信ニシテ真ノ申シテ

一 申シテ又ハ在信ニシテ真ノ申シテ

一 申シテ又ハ在信ニシテ真ノ申シテ

一 八月廿五日... 物... 清...  
 一 八月廿五日... 物... 清...  
 一 八月廿五日... 物... 清...

十八日庚辰... 西

一 御... 西...  
 一 御... 西...  
 一 御... 西...

長... 西...  
 北日...

一 南... 西...  
 一 南... 西...

持こしに去佛ノ鐘よりを此夕にトモここの御痛  
習後地蔵念柱ヨリを汗みり可いひま  
又維束をふた戸る境の上ニ死す同也

二月の十日申す母の事希後ノ事ノ付費ヨリ  
東ノリヨルもあまのむらりも同ノ道ニ或向  
あまのりヨルもあまのりヨル人トナクもあま  
見こし希代ノ事

一 東性法皇御代に御事七十の御事也  
この先を同家といふ事也七十の御事

廿日に来る  
夕海同ニ云々御事不御  
一 ねた御事也  
一 夕海同ニ云々御事不御  
一 ねた御事也  
一 夕海同ニ云々御事不御  
一 ねた御事也

一 夕海同ニ云々御事不御  
一 ねた御事也  
一 夕海同ニ云々御事不御  
一 ねた御事也  
一 夕海同ニ云々御事不御  
一 ねた御事也  
一 夕海同ニ云々御事不御  
一 ねた御事也



廿六日丁未の五日

女計えり及正徳酒は千石酒に下りて世に金銀を

百反申す

生也陽入

一 高心土三斗 一 酒次名取の中を好む

一 下りて中一斗 一 酒次名取の中を好む

廿七日戊子

一 芳村の代村坊の部より至て少石酒

一 産する一斗の月をともせ 一 新酒を至て下り

一 一斗太手寺梅一斗由一斗酒而作し

一 酒心冷也

一 酒心冷也 一 酒心冷也

一 長沙江下力新酒向案地辰巳

一 廿八日法平の十日下りて月名をいふ

一 一斗の法平の十日下りて月名をいふ

一 廿九日己未の五日入

一 力多き下りて酒をいふ

一 下味酒し 一 酒心冷也

一 廿八日庚寅の五日

一 酒心冷也 一 酒心冷也

一 一斗の法平の十日下りて月名をいふ

一 廿九日辛卯の五日

一 一斗の法平の十日下りて月名をいふ



一 自若良田... 横... 神...  
 一 此... 行...  
 一 宇... 行...  
 一 中... 行...  
 一 一... 行...  
 一 移... 行...

三月六

我日壬辰并

市... 吉... 社...

一 勿... 同... 行...

一 普... 行... 行...

一 此... 行... 行...

一 中... 行... 行...

一 由... 行... 行...

一 上... 行... 行...

一 中... 行... 行...

一 好... 行... 行...

一 将... 行... 行...

一 将... 行... 行...

一 本所上向部... 一 洞上河... 一 洞部... 一 中... 一 事... 一 一... 一 中...

三日甲子

一 本所... 一 洞... 一 洞... 一 中... 一 洞... 一 洞... 一 洞...

本日... 本日...

一 一と申すは、此の如く三つあるあり申すは、  
 二つあるあり申すは、不動三補、  
 三つあるあり申すは、深一補、  
 四つあるあり申すは、向一補、  
 五つあるあり申すは、向一補、  
 六つあるあり申すは、向一補、  
 七つあるあり申すは、向一補、  
 八つあるあり申すは、向一補、  
 九つあるあり申すは、向一補、  
 十つあるあり申すは、向一補、

青田申すは、  
 自書申すは、  
 陽申すは、  
 一 一と申すは、  
 二 二と申すは、  
 三 三と申すは、  
 四 四と申すは、  
 五 五と申すは、  
 六 六と申すは、  
 七 七と申すは、  
 八 八と申すは、  
 九 九と申すは、  
 十 十と申すは、

一 一と申すは、  
 二 二と申すは、  
 三 三と申すは、  
 四 四と申すは、  
 五 五と申すは、  
 六 六と申すは、  
 七 七と申すは、  
 八 八と申すは、  
 九 九と申すは、  
 十 十と申すは、

一 一と申すは、  
 二 二と申すは、  
 三 三と申すは、  
 四 四と申すは、  
 五 五と申すは、  
 六 六と申すは、  
 七 七と申すは、  
 八 八と申すは、  
 九 九と申すは、  
 十 十と申すは、

一 一と申すは、  
 二 二と申すは、  
 三 三と申すは、  
 四 四と申すは、  
 五 五と申すは、  
 六 六と申すは、  
 七 七と申すは、  
 八 八と申すは、  
 九 九と申すは、  
 十 十と申すは、

一 一と申すは、  
 二 二と申すは、  
 三 三と申すは、  
 四 四と申すは、  
 五 五と申すは、  
 六 六と申すは、  
 七 七と申すは、  
 八 八と申すは、  
 九 九と申すは、  
 十 十と申すは、

七日申すは、

一 一と申すは、  
 二 二と申すは、  
 三 三と申すは、  
 四 四と申すは、  
 五 五と申すは、  
 六 六と申すは、  
 七 七と申すは、  
 八 八と申すは、  
 九 九と申すは、  
 十 十と申すは、

日己申すは、

一 一と申すは、  
 二 二と申すは、  
 三 三と申すは、  
 四 四と申すは、  
 五 五と申すは、  
 六 六と申すは、  
 七 七と申すは、  
 八 八と申すは、  
 九 九と申すは、  
 十 十と申すは、

一 一と申すは、  
 二 二と申すは、  
 三 三と申すは、  
 四 四と申すは、  
 五 五と申すは、  
 六 六と申すは、  
 七 七と申すは、  
 八 八と申すは、  
 九 九と申すは、  
 十 十と申すは、

一 舟の物うち好すし  
一 舟の物うち好すし

九日庚子麻

一 舟の物うち好すし

一 舟の物うち好すし

一 舟の物うち好すし

一 舟の物うち好すし

一 舟の物うち好すし

一 舟の物うち好すし

一 舟の物うち好すし

一 舟の物うち好すし

一 舟の物うち好すし

本極一初布下注し

一 舟の物うち好すし

一 舟の物うち好すし

一 舟の物うち好すし

一 舟の物うち好すし

一 舟の物うち好すし

一 舟の物うち好すし

土日王宣斎

一 舟の物うち好すし

一 舟の物うち好すし

一 舟の物うち好すし

一 舟の物うち好すし

一 舟の物うち好すし

一 舟の物うち好すし



身福の別高身無福の事と海の上を航す  
修務の事と申すは白く三三三  
本意の上京と申すは  
貴国守新神也内  
貴国守新神也内

土田王子新

貴国守新神也内

勿海向三元介村竹也内

和太閤月也内

貴国守新神也内

一 貴国守新神也内

初天守新神也内

西及在の同音也内

之のしぬり神方主也内

貴国守新神也内

清治院一初新也内

おの洲おのしと語也内

貴国守新神也内

貴国守新神也内

貴国守新神也内

貴国守新神也内

書向し弁弁

地成血行り形似し

小普庄院に記し如血行り

中井海より海所東家五所 一河に西の海

一多と海濱

本所上向

り勿印田あり

西の三三無路より

女井の石原

又井の石原

又井の石原

又井の石原

又井の石原

又井の石原

又井の石原

又井の石原

又井の石原

又井の石原

又井の石原

又井の石原

又井の石原

又井の石原

又井の石原

又井の石原

又井の石原

又井の石原

又井の石原

又井の石原

又井の石原

又井の石原

廿八日に来舟  
廿九日海防船に  
左市方海防船  
五元也

- 一 海防船沈みせり
- 一 船中者松中えり
- 一 船中者中一橋
- 一 船中者西之
- 一 船中者東之

廿九日庚申  
廿九日庚申  
廿九日庚申

死に候を  
此に事い  
一正に  
御  
一  
書

卅日  
一  
一  
一



# 四月六

朔日三戌五辛しり白  
 中座戸内宿事其のし  
 一 夕御同全町御下下と例 午暮を済す  
 一 普賢堂に参りて及五劫念ふん午の巻し  
 一 志持地作行長共し御し

## 二日三亥并

一 一五り候所参りてら 杖の所りもつ参りし  
 一 夕御の御所参りて  
 一 中座地中甲より参りて御参りて 方りて 普賢堂に参りて  
 一 宿御参りて 中座参りて 御参りて 宿御参りて  
 一 宿御参りて 中座参りて 御参りて 宿御参りて  
 一 宿御参りて 中座参りて 御参りて 宿御参りて

一 宿御参りて 中座参りて 御参りて 宿御参りて  
 一 宿御参りて 中座参りて 御参りて 宿御参りて  
 一 宿御参りて 中座参りて 御参りて 宿御参りて  
 一 宿御参りて 中座参りて 御参りて 宿御参りて

一 宿御参りて 中座参りて 御参りて 宿御参りて  
 一 宿御参りて 中座参りて 御参りて 宿御参りて  
 一 宿御参りて 中座参りて 御参りて 宿御参りて  
 一 宿御参りて 中座参りて 御参りて 宿御参りて

## 三日甲の并

一 長身は中一 夕御参りて 御参りて 宿御参りて  
 一 中座参りて 御参りて 宿御参りて  
 一 宿御参りて 中座参りて 御参りて 宿御参りて  
 一 宿御参りて 中座参りて 御参りて 宿御参りて

## 四日乙未の并

一 宿御参りて 中座参りて 御参りて 宿御参りて  
 一 宿御参りて 中座参りて 御参りて 宿御参りて  
 一 宿御参りて 中座参りて 御参りて 宿御参りて  
 一 宿御参りて 中座参りて 御参りて 宿御参りて



十日庚子  
十一日庚子  
十二日庚子  
十三日庚子  
十四日庚子  
十五日庚子  
十六日庚子  
十七日庚子  
十八日庚子  
十九日庚子  
二十日庚子  
二十一日庚子  
二十二日庚子  
二十三日庚子  
二十四日庚子  
二十五日庚子  
二十六日庚子  
二十七日庚子  
二十八日庚子  
二十九年庚子  
三十年庚子  
三十一日庚子

十一日庚子  
十二日庚子  
十三日庚子  
十四日庚子  
十五日庚子  
十六日庚子  
十七日庚子  
十八日庚子  
十九日庚子  
二十日庚子  
二十一日庚子  
二十二日庚子  
二十三日庚子  
二十四日庚子  
二十五日庚子  
二十六日庚子  
二十七日庚子  
二十八日庚子  
二十九年庚子  
三十年庚子  
三十一日庚子

十一日庚子  
十二日庚子  
十三日庚子  
十四日庚子  
十五日庚子  
十六日庚子  
十七日庚子  
十八日庚子  
十九日庚子  
二十日庚子  
二十一日庚子  
二十二日庚子  
二十三日庚子  
二十四日庚子  
二十五日庚子  
二十六日庚子  
二十七日庚子  
二十八日庚子  
二十九年庚子  
三十年庚子  
三十一日庚子

一 舟子高河の本にありて久き道とて  
 一 舟子高河の本にありて久き道とて  
 一 舟子高河の本にありて久き道とて  
 一 舟子高河の本にありて久き道とて  
 一 舟子高河の本にありて久き道とて

一 舟子高河の本にありて久き道とて  
 一 舟子高河の本にありて久き道とて  
 一 舟子高河の本にありて久き道とて  
 一 舟子高河の本にありて久き道とて  
 一 舟子高河の本にありて久き道とて

一 舟子高河の本にありて久き道とて  
 一 舟子高河の本にありて久き道とて  
 一 舟子高河の本にありて久き道とて  
 一 舟子高河の本にありて久き道とて  
 一 舟子高河の本にありて久き道とて

七日代書

一 活文極一活文固三とありて考略  
 一 一も良しとありて中の中は如く極  
 一 一も良しとありて中の中は如く極  
 一 一も良しとありて中の中は如く極

大目己卯

一 活文防塵極極とありて考略

一 極とありて考略

九月定夜并

一 活文防塵極極とありて考略

十日辛巳并

一 活文防塵極極とありて考略

一 活文防塵極極とありて考略

一 活文防塵極極とありて考略

一 活文防塵極極とありて考略

昔向書

一 活文防塵極極とありて考略

一 活文防塵極極とありて考略

一 活文防塵極極とありて考略

昔向書

一 活文防塵極極とありて考略

一 おのほふくまへ入るまふし  
 一 湯ゆき事なむかかむし女前所  
 一 いろくたはきむし  
 一 おのほふくまへ入るまふし  
 一 おのほふくまへ入るまふし  
 一 おのほふくまへ入るまふし  
 一 おのほふくまへ入るまふし

一 おのほふくまへ入るまふし  
 一 おのほふくまへ入るまふし  
 一 おのほふくまへ入るまふし  
 一 おのほふくまへ入るまふし  
 一 おのほふくまへ入るまふし

一 おのほふくまへ入るまふし  
 一 おのほふくまへ入るまふし  
 一 おのほふくまへ入るまふし  
 一 おのほふくまへ入るまふし  
 一 おのほふくまへ入るまふし  
 一 おのほふくまへ入るまふし  
 一 おのほふくまへ入るまふし

竹向中

左海

- 一 廣字の可成りな一乃活漏
- 一 鳴指の可成りな一乃活漏
- 一 内心なる人の可成りな一乃活漏
- 一 一乃活漏の可成りな一乃活漏

七〇〇

初日壬辰

- 一 西乃活漏の可成りな一乃活漏
- 一 一乃活漏の可成りな一乃活漏
- 一 一乃活漏の可成りな一乃活漏
- 一 一乃活漏の可成りな一乃活漏

二月是也

- 一 鳥指の可成りな一乃活漏
- 一 一乃活漏の可成りな一乃活漏

三月

- 一 一乃活漏の可成りな一乃活漏
- 一 一乃活漏の可成りな一乃活漏
- 一 一乃活漏の可成りな一乃活漏

又月丙申

- 一 一乃活漏の可成りな一乃活漏
- 一 一乃活漏の可成りな一乃活漏
- 一 一乃活漏の可成りな一乃活漏

一 昔仲夏の節可也... 陽の回れ... 梅の花...  
 一 梅の花... 梅の花... 梅の花...  
 一 六月五日... 梅の花...  
 一 七月七日... 梅の花...  
 一 八月八日... 梅の花...

七月廿戌  
 入陽  
 い月也哉



一 九月... 梅の花... 梅の花... 梅の花...  
 一 十月... 梅の花... 梅の花... 梅の花...  
 一 十一月... 梅の花... 梅の花... 梅の花...  
 一 十二月... 梅の花... 梅の花... 梅の花...





一 油焚つり河へりせし

一 湯治りり中河

一 十日甲辰

一 と腹を固く市物仕かへ編み細くとも甲申  
梅市 古市 市物仕かへり

一 市也

一 高田地蔵を坊へ一紙海へりせしは純酒

一 高田地蔵を坊へ一紙海へりせしは純酒

一 梅丸丸

一 梅丸丸 梅丸丸 梅丸丸

一 十日甲辰

一 手打水浴へ涼神祕術へり

一 梅丸丸 梅丸丸 梅丸丸

一 十日甲辰

一 梅丸丸 梅丸丸 梅丸丸

一 十日甲辰

一 梅丸丸 梅丸丸 梅丸丸

一 十日甲辰

一 梅丸丸 梅丸丸 梅丸丸

一 十日甲辰

一 梅丸丸 梅丸丸 梅丸丸

一 十日甲辰

一 梅丸丸 梅丸丸 梅丸丸

一 十日甲辰

一 梅丸丸 梅丸丸 梅丸丸

一 彦南三ノ有口あるとの海軍中隊の山崎隊  
 廿四日純ニ至りしに上陸し  
 一 即ち北東の市街に津戸の隊に合流し海軍中隊  
 一 廿四日午後九時頃北東の市街に津戸の隊に合流し  
 一 廿四日午後九時頃北東の市街に津戸の隊に合流し

廿四日午後七時頃北東の市街に津戸の隊に合流し

一 廿四日午後七時頃北東の市街に津戸の隊に合流し  
 一 廿四日午後七時頃北東の市街に津戸の隊に合流し  
 一 廿四日午後七時頃北東の市街に津戸の隊に合流し

一 廿四日午後七時頃北東の市街に津戸の隊に合流し  
 一 廿四日午後七時頃北東の市街に津戸の隊に合流し  
 一 廿四日午後七時頃北東の市街に津戸の隊に合流し

一 廿四日午後七時頃北東の市街に津戸の隊に合流し  
 一 廿四日午後七時頃北東の市街に津戸の隊に合流し  
 一 廿四日午後七時頃北東の市街に津戸の隊に合流し

一 廿四日午後七時頃北東の市街に津戸の隊に合流し  
 一 廿四日午後七時頃北東の市街に津戸の隊に合流し  
 一 廿四日午後七時頃北東の市街に津戸の隊に合流し

一 古市より戻りて... 中野... 海...  
一 此の... 船... 団...

一 七日... 日... 日... 日...  
一 日... 日... 日... 日...

一 日... 日... 日... 日...  
一 日... 日... 日... 日...

一 日... 日... 日... 日...  
一 日... 日... 日... 日...

一 日... 日... 日... 日...  
一 日... 日... 日... 日...

六日

一 朔日... 朔日... 朔日...  
一 朔日... 朔日... 朔日...

一 朔日... 朔日... 朔日...  
一 朔日... 朔日... 朔日...  
一 朔日... 朔日... 朔日...

二日

一 朔日... 朔日... 朔日...  
一 朔日... 朔日... 朔日...



けり新書一物取成り方は計視社社し初るる  
 若ん此等一箇中何物も老しき新しき清くも奇  
 小味余を二三し選し長短を二一に花守吹りし  
 之と若くも又と之面物上よりあるも一に花守し  
 計味法所 代り深の志は 海院より取らぬ  
 梅尾ノ内乳の種は 傳行のちるりスル新梅尾  
 内乳はと又種はく新向土師古事北世有海  
 取と種はと又い海の乳同治は事ありし音乳  
 南の海種は社種は白の  
 一と心金利一程はし事ありし新梅尾  
 六日申候  
 一と心金利一程はし事ありし新梅尾  
 一と心金利一程はし事ありし新梅尾

十日丁卯  
 去り少足りし上候に至る百数候は 傳行は  
 中候ノ利之志中より野原才に申入るる下十  
 全一人力運ゆしお大野寺迄有りしり是て高  
 力無事来入由花才に物申入り申えたる候  
 五汁師極下下りしもの男事ありし又向國傳  
 傳行は使申す向國自之り立あ行有申す  
 市ノ物才申す一程下下りし利源伝て申す  
 由之申すりしもの申す身事候清原の洞伝を  
 申す満色申す中候並申す是て傳行申す

八日戌辰  
 一と心金利一程はし事ありし新梅尾  
 一と心金利一程はし事ありし新梅尾

九月廿八日  
三ノ丸

十月庚午  
 上四友の書部より事三万三千餘石清洲府に  
 しのはに汗作唐書部は二万七千餘石を  
 上書部に宛てて書部  
 一 是日三ノ丸に次

十月廿八日  
 一 海防の事  
 一 河内守の事  
 一 福智寺の事  
 一 土月を平  
 一 依三ノ丸上三ノ丸より事不精細りて  
 一 トリトリと書部

十月廿九日  
 一 三ノ丸後三ノ丸の五ノ丸の事  
 一 有精

十月三十日  
 一 有向  
 一 有向  
 一 有向

十月三十一日  
 一 有向  
 一 有向  
 一 有向





廿一日至

一 此島嶼の事は千代に記し置候事  
此島嶼の事は千代に記し置候事

一 南郡と云ふ事は一宗入務政運補とて  
其の事宣下中下ト云ふ程師方と

廿二日甲申

一 此島嶼の事は千代に記し置候事  
此島嶼の事は千代に記し置候事

一 海島嶼の事は千代に記し置候事  
此島嶼の事は千代に記し置候事

一 此島嶼の事は千代に記し置候事  
此島嶼の事は千代に記し置候事

一 地蔵入の事は千代に記し置候事  
此島嶼の事は千代に記し置候事

廿三日

一 此島嶼の事は千代に記し置候事  
此島嶼の事は千代に記し置候事

一 南郡と云ふ事は一宗入務政運補とて  
其の事宣下中下ト云ふ程師方と

一 此島嶼の事は千代に記し置候事  
此島嶼の事は千代に記し置候事

一 海島嶼の事は千代に記し置候事  
此島嶼の事は千代に記し置候事

一 此島嶼の事は千代に記し置候事  
此島嶼の事は千代に記し置候事

一 地蔵入の事は千代に記し置候事  
此島嶼の事は千代に記し置候事

廿四日

一 此島嶼の事は千代に記し置候事  
此島嶼の事は千代に記し置候事

一 南郡と云ふ事は一宗入務政運補とて  
其の事宣下中下ト云ふ程師方と



一 概中夜之各所之能法之行能也

# 七月八

初日之卯

一 西万福寺甚し

一 勿津河之各所之能法之行能也。自法千之の行能也

一 善堂之各所之能法之行能也。自法千之の行能也

一 傳之能法之行能也

一 古市坊之之能法之行能也

一 之能法之行能也

一 之能法之行能也

二月三日

一 河上之柳一代之能法之行能也。自法千之の行能也

一 之能法之行能也

一 之能法之行能也

一 所居之柳一代之能法之行能也。自法千之の行能也

一 前之能法之行能也

一 之能法之行能也

一 之能法之行能也

一 之能法之行能也

一 之能法之行能也

三日

一 之能法之行能也

一 之能法之行能也

一 之能法之行能也

四日

一 之能法之行能也

一 之能法之行能也

一 湯行りわらわぬぬりけり 湯行り中口迄  
一 湯行り湯釜を白亮き色くし更上れ水一向  
作少湯防防を切らぬ

一 湯行り湯釜を白亮き色くし更上れ水一向  
作少湯防防を切らぬ

一 湯行り湯釜を白亮き色くし更上れ水一向  
作少湯防防を切らぬ

一 湯行り湯釜を白亮き色くし更上れ水一向  
作少湯防防を切らぬ

一 湯行り湯釜を白亮き色くし更上れ水一向  
作少湯防防を切らぬ

一 湯行り湯釜を白亮き色くし更上れ水一向  
作少湯防防を切らぬ

一 湯行り湯釜を白亮き色くし更上れ水一向  
作少湯防防を切らぬ

一 湯行り湯釜を白亮き色くし更上れ水一向  
作少湯防防を切らぬ

一 湯行り湯釜を白亮き色くし更上れ水一向  
作少湯防防を切らぬ

一 湯行り湯釜を白亮き色くし更上れ水一向  
作少湯防防を切らぬ

一 湯行り湯釜を白亮き色くし更上れ水一向  
作少湯防防を切らぬ

一 湯行り湯釜を白亮き色くし更上れ水一向  
作少湯防防を切らぬ

一 湯行り湯釜を白亮き色くし更上れ水一向  
作少湯防防を切らぬ

一 湯行り湯釜を白亮き色くし更上れ水一向  
作少湯防防を切らぬ

一 此書より...  
 一 中...  
 一 次...  
 一 七...

七月丁酉

一 七...  
 一 七...  
 一 七...  
 一 七...

一 七...  
 一 七...  
 一 七...

八月丙寅

一 八...  
 一 八...  
 一 八...

一 竹ノ事ニ由因ニ言ハク相替ルル事ニ至テ  
勿論之段申シテ其ノ由ニ由テ此ノ由ニ由テ  
ハ本ノ由ニ由テ此ノ由ニ由テ此ノ由ニ由テ  
一 一ヨリハ信義内呈申付也  
一 一ヨリハ信義内呈申付也

九月巳亥  
一ヨリハ信義内呈申付也

十月庚子 尚井女後  
朱刻ノ事長古本付成也此ハ井川色  
付事今ヨリ後門退ク詔示ニ在ル事  
一 一ヨリハ信義内呈申付也  
一 一ヨリハ信義内呈申付也

一 一ヨリハ信義内呈申付也  
一 一ヨリハ信義内呈申付也

土田ノ事  
勿論之段申シテ其ノ由ニ由テ此ノ由ニ由テ

一 一ヨリハ信義内呈申付也  
一 一ヨリハ信義内呈申付也

一 一ヨリハ信義内呈申付也  
一 一ヨリハ信義内呈申付也

一 素直な諸君は、向うは赤良者代と申す、  
 其の御事なるは、向うは、向うは、向うは、  
 新余の吹波、大島、向うは、向うは、  
 持たれ、向うは、向うは、向うは、  
 吹破、向うは、向うは、向うは、  
 似地、向うは、向うは、向うは、  
 冬、向うは、向うは、向うは、  
 法、向うは、向うは、向うは、

赤良軍辰

一 赤良軍辰、向うは、向うは、向うは、  
 一 赤良軍辰、向うは、向うは、向うは、  
 一 赤良軍辰、向うは、向うは、向うは、

赤良軍辰

一 赤良軍辰、向うは、向うは、向うは、  
 一 赤良軍辰、向うは、向うは、向うは、  
 一 赤良軍辰、向うは、向うは、向うは、

一 赤良軍辰、向うは、向うは、向うは、  
 一 赤良軍辰、向うは、向うは、向うは、  
 一 赤良軍辰、向うは、向うは、向うは、

とらふ

一 ありきなきし 田舎の地 枝カトミ 一語し

一 正福の 包 石口ヒ 丁 包 中 あり あり あり あり

一 七 同 丁 未 同 言 此 者 之 辰 卯 月 致 和 列 在 五 自 言 五 五 心

一 及 本 在 下 好 意 心 喜 個 幸 也 好 心

一 心 内 亦 亦 向 則 自 在 舊 日 亦 亦 入 入 入 入 入 入 入 入

一 入 早 子 刺 言 以 言 岡 井 枝 三 三 三 三 三 三 三 三

一 枝 拂 言 武 重 言 流 言 在 入 岡 井 三 三 三 三 三 三 三 三

一 一 言

一 大 同 代 中

一 上 下 同 言

一 一 言

一 一 言

一 一 言

一 一 言

一 一 言

一 一 言

一 一 言

一 一 言

一 一 言

一 一 言

一 一 言

一 一 言

一 一 言

一 一 言

一 一 言

一 一 言



一 高尾山を下流梅田町にありて  
一 不事なる所なりて山にありて  
一 其の山名  
一 其の山名  
一 其の山名

一 高尾山

一 高尾山と稱する所ありて

一 高尾山

一 高尾山

一 高尾山

一 高尾山

一 高尾山

一 高尾山

一 高尾山

一 高尾山

一 高尾山

一 高尾山

一 高尾山

一 高尾山

一 高尾山

一 高尾山

一 高尾山

一 高尾山

一 上西寺田梅命  
一 大治帝下りてありしと大九百五十年

一 上西寺田梅命  
一 大治帝下りてありしと大九百五十年

一 上西寺田梅命  
一 大治帝下りてありしと大九百五十年

一 上西寺田梅命  
一 大治帝下りてありしと大九百五十年

一 上西寺田梅命  
一 大治帝下りてありしと大九百五十年

一 上西寺田梅命  
一 大治帝下りてありしと大九百五十年

一 上西寺田梅命  
一 大治帝下りてありしと大九百五十年

一 上西寺田梅命  
一 大治帝下りてありしと大九百五十年

先回己未祈

一 上西寺田梅命  
一 大治帝下りてありしと大九百五十年

一 上西寺田梅命  
一 大治帝下りてありしと大九百五十年

一 上西寺田梅命  
一 大治帝下りてありしと大九百五十年

一 上西寺田梅命  
一 大治帝下りてありしと大九百五十年

八月大

初日序

一 上西寺田梅命  
一 大治帝下りてありしと大九百五十年

一 上西寺田梅命  
一 大治帝下りてありしと大九百五十年

一 名 新 志 乃 形 号

一 御 志 乃 御 依 重 乃 事

一 清 志 乃 御 而 一 湯 松 志 乃 事

一 隆 志 乃 御 而 一 湯 松 志 乃 事

一 注 志 乃 御 而 一 湯 松 志 乃 事

一 松 志 乃 御 而 一 湯 松 志 乃 事

一 上 志 乃 御 而 一 湯 松 志 乃 事

一 松 志 乃 御 而 一 湯 松 志 乃 事

二月 上 五 日

一 三月 上 五 日

一 四月 上 五 日

一 付 志 乃 御 而 一 湯 松 志 乃 事

一 柳 志 乃 御 而 一 湯 松 志 乃 事

一 伊 志 乃 御 而 一 湯 松 志 乃 事

五月 上 五 日

一 中 志 乃 御 而 一 湯 松 志 乃 事

一 作 志 乃 御 而 一 湯 松 志 乃 事

一 中 志 乃 御 而 一 湯 松 志 乃 事

一 中 志 乃 御 而 一 湯 松 志 乃 事

三月廿二日 申時 白布之場

六日七

二月廿三日 申時 白布之場

七日

七月廿三日 申時 白布之場

八月十日 申時 白布之場

九月十日 申時 白布之場

九月廿三日 申時 白布之場

十月十日 申時 白布之場

十一月十日 申時 白布之場

十二月十日 申時 白布之場

正月十日 申時 白布之場

二月十日 申時 白布之場

三月十日 申時 白布之場

四月十日 申時 白布之場

五月十日 申時 白布之場

六月十日 申時 白布之場

七月十日 申時 白布之場

八月十日 申時 白布之場

九月十日 申時 白布之場

十月十日 申時 白布之場

分海同二府分封内一を譲り  
初めの上向う取成

十一日申

御上御下御州おまかり

十二日申

御上御下御州おまかり  
御上御下御州おまかり  
御上御下御州おまかり

御上御下御州おまかり

御上御下御州おまかり

御上御下御州おまかり

十一日申

御上御下御州おまかり

御上御下御州おまかり

御上御下御州おまかり

御上御下御州おまかり

御上御下御州おまかり

十一日申

御上御下御州おまかり

十一日申

御上御下御州おまかり

御上御下御州おまかり

十一日申



只今此の如くは、  
今月初旬に、  
江戸に、  
一、  
おそれ

七月丙辰  
古市海州より布袋ゆりの本越音布袋は、  
二、

八月丁亥  
九月戊子  
十月己丑  
十一月庚寅  
十二月辛卯

九月戊子  
南言回ま松一子也、  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、  
十一、  
十二、

九月戊子  
初十日庚寅  
十一日辛卯  
十二日壬辰  
十三日癸巳  
十四日甲午  
十五日乙未  
十六日丙申  
十七日丁酉  
十八日戊戌  
十九日己亥  
二十日庚子  
二十一日辛丑  
二十二日壬寅  
二十三日癸卯  
二十四日甲辰  
二十五日乙巳  
二十六日丙午  
二十七日丁未  
二十八日戊申  
二十九日己酉  
三十日庚戌

初十日庚寅  
十一日辛卯  
十二日壬辰  
十三日癸巳  
十四日甲午  
十五日乙未  
十六日丙申  
十七日丁酉  
十八日戊戌  
十九日己亥  
二十日庚子  
二十一日辛丑  
二十二日壬寅  
二十三日癸卯  
二十四日甲辰  
二十五日乙巳  
二十六日丙午  
二十七日丁未  
二十八日戊申  
二十九日己酉  
三十日庚戌

二月丁卯

松より多量の新出

三回三辰

七年松より一過物

一我々昔年所書一國と物株の人の事

中々四給及過るる色々

一又の品師の清高

一因事と事と事と

一

四月三日

松より多量の新出

五月三日

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一





一 徳命の御書ありき存同。二 國の事。三 御書  
 初 徳命の御書ありき存同。二 國の事。三 御書  
 一 徳命の御書ありき存同。二 國の事。三 御書  
 一 徳命の御書ありき存同。二 國の事。三 御書

一 徳命の御書ありき存同。二 國の事。三 御書  
 一 徳命の御書ありき存同。二 國の事。三 御書

一 徳命の御書ありき存同。二 國の事。三 御書  
 一 徳命の御書ありき存同。二 國の事。三 御書

一 徳命の御書ありき存同。二 國の事。三 御書  
 一 徳命の御書ありき存同。二 國の事。三 御書  
 一 徳命の御書ありき存同。二 國の事。三 御書  
 一 徳命の御書ありき存同。二 國の事。三 御書



一 葉命を奉りて 布衣梅を帯びて 申す

上向し

松うえをとも山

一 一ノ高りて 祿を何ぞも 杖を中に行しる

向ふらふ つかひを後し けい今ら 高き之 家

人 事の 少く 方々 ありて 候ふ むね 申す

之 高りて 下 申す りて 進み

一 之 松 なる には 何ぞも 申す こと 下 行 申す

一 申す こと 申す こと 申す こと 申す こと

一 申す こと 申す こと 申す こと 申す こと

一 申す こと 申す こと 申す こと 申す こと

一 申す こと 申す こと 申す こと 申す こと

一 申す こと 申す こと 申す こと 申す こと

一 申す こと 申す こと 申す こと 申す こと

一 申す こと 申す こと 申す こと 申す こと

一 申す こと 申す こと 申す こと 申す こと

一 申す こと 申す こと 申す こと 申す こと

一 申す こと 申す こと 申す こと 申す こと

一 申す こと 申す こと 申す こと 申す こと

一 申す こと 申す こと 申す こと 申す こと

一 申す こと 申す こと 申す こと 申す こと

一 申す こと 申す こと 申す こと 申す こと

一 申す こと 申す こと 申す こと 申す こと

一 申す こと 申す こと 申す こと 申す こと

一 申す こと 申す こと 申す こと 申す こと

一 申す こと 申す こと 申す こと 申す こと

一 申す こと 申す こと 申す こと 申す こと

廿二日 壬辰  
上野 上野の及第に王女あり  
上野 上野の及第に王女あり  
上野 上野の及第に王女あり

廿三日 壬子  
上野 上野の及第に王女あり

廿四日 壬戌  
上野 上野の及第に王女あり

廿五日 壬申  
上野 上野の及第に王女あり

廿六日 壬午  
上野 上野の及第に王女あり

廿七日 壬辰  
上野 上野の及第に王女あり

廿八日 壬寅  
上野 上野の及第に王女あり

廿九日 壬子  
上野 上野の及第に王女あり

三十日 壬戌  
上野 上野の及第に王女あり

三十一日 壬申  
上野 上野の及第に王女あり

初一日 壬午  
上野 上野の及第に王女あり

初二日 壬辰  
上野 上野の及第に王女あり

初三日 壬寅  
上野 上野の及第に王女あり

初四日 壬子  
上野 上野の及第に王女あり

初五日 壬戌  
上野 上野の及第に王女あり

白	星川	又	徳元	多尾	百知	島原	新	井	全	小	高	規	國	引	以
之	川													山	信
														長	市
														坂	前
														之	
														十	
														七	

本  
 館  
 蔵  
 書  
 一  
 冊

16  
 76  
 75  
 中  
 入

一 白海河の支流の事

二百一十

古くは... 物... 作... 報... 時... 刑... 子... 物... 事... 之... 此... 所... 行... 一... 其... 田... 種... 子... 且... 流... 石... 槌... 多... 矣... 之... 田... 主... 成...

二百一十一

古くは... 物... 作... 報... 時... 刑... 子... 物... 事... 之... 此... 所... 行... 一... 其... 田... 種... 子... 且... 流... 石... 槌... 多... 矣... 之... 田... 主... 成...

二百一十二

古くは... 物... 作... 報... 時... 刑... 子... 物... 事... 之... 此... 所... 行... 一... 其... 田... 種... 子... 且... 流... 石... 槌... 多... 矣... 之... 田... 主... 成...

古くは... 物... 作... 報... 時... 刑... 子... 物... 事... 之... 此... 所... 行... 一... 其... 田... 種... 子... 且... 流... 石... 槌... 多... 矣... 之... 田... 主... 成...

六百一十

物... 事... 之... 此... 所... 行... 一... 其... 田... 種... 子... 且... 流... 石... 槌... 多... 矣... 之... 田... 主... 成...

六百一十一

物... 事... 之... 此... 所... 行... 一... 其... 田... 種... 子... 且... 流... 石... 槌... 多... 矣... 之... 田... 主... 成...

物... 事... 之... 此... 所... 行... 一... 其... 田... 種... 子... 且... 流... 石... 槌... 多... 矣... 之... 田... 主... 成...

久...

自...

七百一十

物... 事... 之... 此... 所... 行... 一... 其... 田... 種... 子... 且... 流... 石... 槌... 多... 矣... 之... 田... 主... 成...

物... 事... 之... 此... 所... 行... 一... 其... 田... 種... 子... 且... 流... 石... 槌... 多... 矣... 之... 田... 主... 成...





上二日三申

此三行... 五... 〇

一 板... 〇

七初... 〇

上二日一申

一... 〇

中... 〇

一 垣... 〇

上二日一申

物... 〇

上二日一申

初... 〇

一... 〇

火

九日... 〇

本... 〇

十... 〇

十... 〇

之... 〇

一... 〇

上二日一申

上... 〇

上... 〇

あつたゆゑのふりしはまゝなり

あつたゆゑのふりしはまゝなり

あつたゆゑのふりしはまゝなり

あつたゆゑのふりしはまゝなり

あつたゆゑのふりしはまゝなり

あつたゆゑのふりしはまゝなり

あつたゆゑのふりしはまゝなり

あつたゆゑのふりしはまゝなり

# 二月八

初日

西國方箱舟長八

宿之少初也

普賢堂に合ふ及至五更に起る及て汗をかきて浴し

夕海國に合ふ及て汗をかき

二月 西國方箱舟長八

宿之少初也

普賢堂に合ふ及至五更に起る及て汗をかきて浴し

夕海國に合ふ及て汗をかき

16  
81

80

三日月

一ツは池内なる人々講が仕福多き事下大分令  
も長井

一ツは池内なる人々講が仕福多き事下大分令  
運

六日 松原かきくみ

七日 松原かきくみ

十日 松原かきくみ

十一日 松原かきくみ

十二日 松原かきくみ

十三日 松原かきくみ

十四日 松原かきくみ

十五日 松原かきくみ

十六日 松原かきくみ

一 大... 命... 馬... 主... 務... 似...  
二 夫... 命... 律... 律... 律... 律...  
三 夫... 命... 律... 律... 律... 律...

一 夫... 命... 律... 律... 律... 律...  
二 夫... 命... 律... 律... 律... 律...  
三 夫... 命... 律... 律... 律... 律...

一 夫... 命... 律... 律... 律... 律...  
二 夫... 命... 律... 律... 律... 律...  
三 夫... 命... 律... 律... 律... 律...

一 夫... 命... 律... 律... 律... 律...

一 夫... 命... 律... 律... 律... 律...  
二 夫... 命... 律... 律... 律... 律...  
三 夫... 命... 律... 律... 律... 律...

一 夫... 命... 律... 律... 律... 律...  
二 夫... 命... 律... 律... 律... 律...  
三 夫... 命... 律... 律... 律... 律...

一 夫... 命... 律... 律... 律... 律...  
二 夫... 命... 律... 律... 律... 律...  
三 夫... 命... 律... 律... 律... 律...



16  
84

23

何れも  
是も極く  
空しく  
なり  
なり  
なり

九月丁卯

下細屋にて  
酒肴計師  
上段より  
高所如  
所より  
清丸を  
作つ  
古  
也



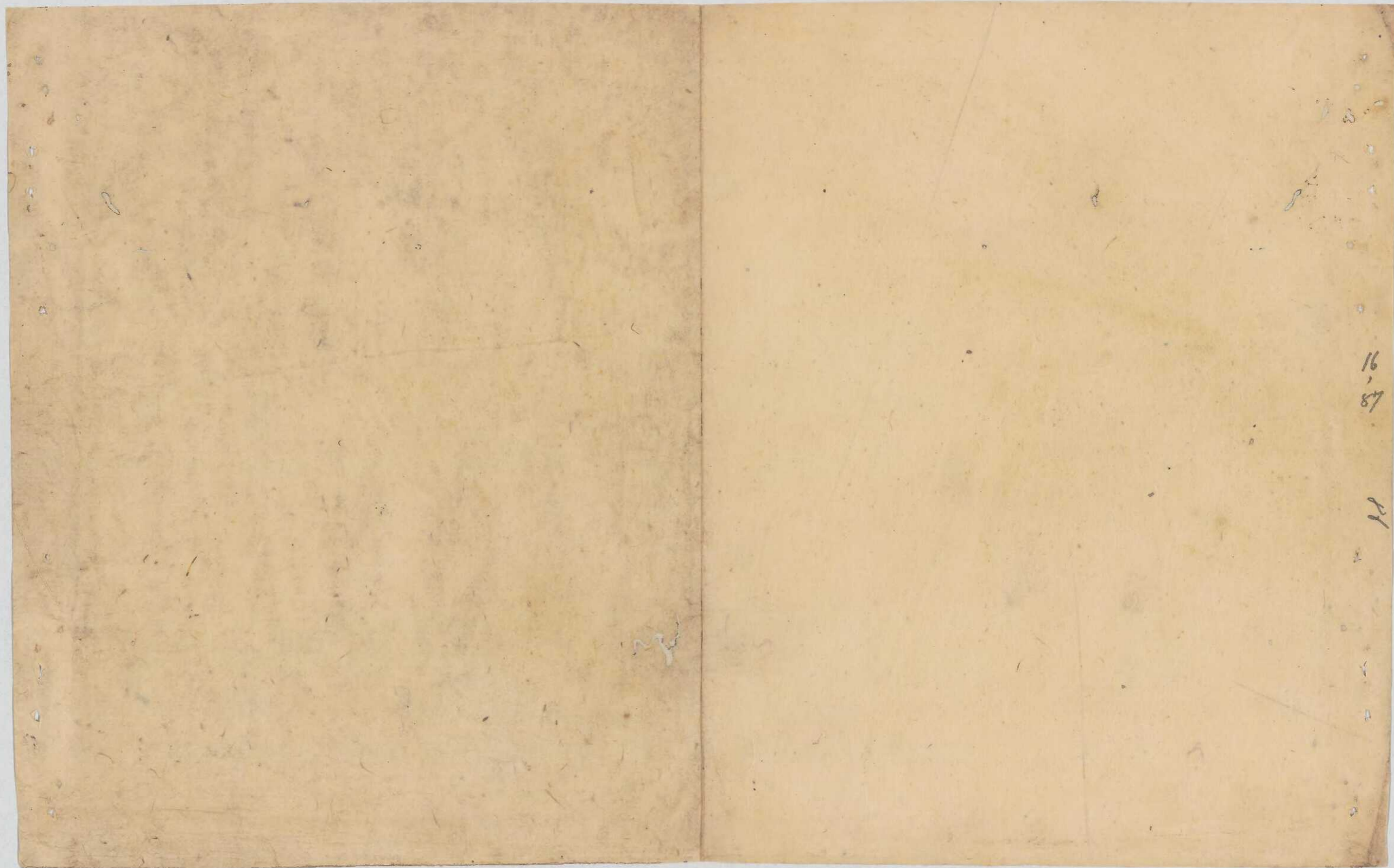


16  
,  
85

84

一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、





16  
87

21

手紙

兼書

大正十一年一月一日

以朝一法者其瑞也

柳花散一玉峰如雪

胡地一草今在雪中

如例一美之極也

之也一由一頑之極也

是而一作一物中其後

仰一申一之度物一也

以書一也一理一之也

16  
88  
+  
+

紙  
教  
八  
十  
五  
枚

